



ふくりゅう

特定非営利活動法人
日本下水道文化研究会会報

発行責任者 酒井彰(運営委員会代表)

平成21年3月30日
通巻60号

第13回 日本下水道文化研究会 総会のお知らせ

日本下水道文化研究会では平成21年度総会(第13回)を下記のとおり開催いたします。

平成20年度は、分科会活動、支部活動は活発に行われました。海外技術協力分科会では、JICA(国際協力機構)草の根無償協力事業とTOTO水環境基金によるプロジェクトを継続するとともに、国際衛生年にちなむ行事として、JICA地球ひろばとの共催で、「水と衛生に関わる開発援助フォーラム」を開催いたしました。屎尿・下水分科会では、定期的な例会の開催を継続し、例会での講話内容の活字化、CD化による普及を進めるとともに、4回にわたって行われた小平市ふれあい下水道館における特別講話会へ講師を派遣しました。関西支部では、水に関連するNGOとのネットワークづくりなど継続的な活動が進められてきました。

こうしたなかで、資金、活動の担い手など懸案の課題への対応を見出すとともに、会員の実態、会員からの本会活動への評価を把握するため、会員の皆様にアンケート調査をお願いいたしました。その結果、これまでの活動に対して一定の評価がなされていること、会費についてもおおむね妥当と判断されている会員が多いことがわかりました。また、アンケート結果からも、新たな会員層の開拓、会員間の情報交流機能の充実などが課題として浮かび上が

てまいりました。

5月中旬には総会議案書をお送りする予定です。本会諸活動についてご理解を深めていただくとともに、忌憚のないご意見を交換できる場にしたいと思っておりますので、ふるってご参加お願い申し上げます。やむを得ず参加いただけない会員の皆様は、委任状を提出願います。

総会プログラムは、本総会を分科会、支部の活動成果を会員の皆様へ伝達する場として企画いたします。また、本会副代表、関西支部長の木村淳弘氏がこのたび日本下水道協会より「下水道法制定50周年記念功労賞」を受賞されましたことを記念いたしまして、記念講演を行います。

記

日時 平成21年6月6日(土) 13:30～15:30
場所 日本水道会館7階会議室
千代田区九段南4-8-9

プログラム(予定)

第1部 分科会・支部活動

第2部 総会

第3部 下水道法制定50周年記念功労賞受賞記念講演
本会副代表 木村 淳弘

※総会終了後懇親会を開催します。

2009年バルトン記念墓参とジョイントコンサートのご案内

本年も「W.K.バルトン記念墓参」を下記により実施いたします。

東京都青山霊園のバルトン碑に墓参し、バルトンのご子孫であるケビン・メッツ氏、新田昌弘氏による津軽三味線、および東京パイプバンドの小林ユカリ氏(バグパイプ)によるスコットランド民謡などの墓前演奏が捧げられます。

午後は会場を日本キリスト教団原宿教会(青山霊園から徒歩15分)に移し、墓前演奏をされた3奏者が共演する「バルトンメモリアル 津軽三味線・バグパイプ ジョイントコンサート」を開催いたします。

ふるってご参加されますようご案内申し上げます。

記念墓参

主催：NPO法人 日本下水道文化研究会

W.K.バルトン記念日英交流事業2009実行委員会

日時：2009年5月9日(土)

午前10時30分(集合)～11時30分

集合場所：青山霊園入口 島村花店^{注1}

港区南青山2-34-31 TEL 03-3401-2682

最寄駅：東京メトロ千代田線乃木坂駅 徒歩5分、

銀座線外苑前駅 徒歩10分

参加費：無料(申込みも不要ですので、当日時間までに集合場所にお集まり下さい。)

バルトンメモリアル ジョイントコンサート^{注2}

主催：W.K.バルトン記念日英交流事業2009実行委員会

日時：2009年5月9日(土) 午後1時～3時

場所：日本基督教団原宿教会礼拝堂

東京メトロ外苑前駅下車③出口徒歩5分

参加費：無料(当日カンパをお願いします)

申込み：下記に Fax またはメールで事前にお申込み下さい。書式は自由で氏名、連絡先(住所、電話、メールアドレス等)、人数を明記して下さい。(先着120名様とします)

Fax：045-491-8984、Mail：tanisan@kqh.biglobe.ne.jp

^{注1}：バルトン墓碑へは島村花店(地図は本会ホームページに掲載しています)からご案内いたします。なお、交通事情等により間に合わなかった場合は墓碑へ直接おいで下さい。(当日連絡先：090-2304-7200)

^{注2}：バルトン墓碑の位置 青山霊園：I種イー5-1-1

^{注2}：本会ホームページ(URLは6ページ参照)に演奏者のプロフィールや会場の地図を掲載したコンサートのポスターをアップしています。

第45回定例研究会報告

「 **Bangladesh 農村の環境問題** -アジアヒ素ネットワークの活動から見たこと-

本会会員 高村 哲

3月4日(水)、第45回定例研究会に参加しました。講師をしていただいたアジアヒ素ネットワーク(AAN)の川原一之氏は、AANの事務局長、ダッカ事務所長、JICA専門家として、Bangladeshの井戸水ヒ素汚染問題に取り組んでこられ、本会の海外活動にも多くの協力をいただいている方です。現場の声を聞ける数少ない機会ですので、お聞きしたことをきちんと踏まえて、これからの活動をやっていきたいという思いで聞かせていただきました。以下にお話の概要をお伝えしたいと思います。

日本とBangladeshの農村

- 日本の土呂久(とろく)というヒ素の被害を見てこられた目からは、まずBangladeshの農村は日本の農村と比べて圧倒的に人が多いと言うこと。Bangladeshの人々も非常に清潔好きであることを、掃き清められた、民家の土間の写真などで説明された。

Bangladeshとインド

- ガンジス川などの大河の下流に広がったBangladeshは、上流側のインドとの連携がうまくいかず、自立的に流れのコントロールはできない状態。たとえば、星も見える晴天の深夜に突然大洪水に見舞われ、その原因は、おそらくインド側のダムの放水であろうということがあった。
- 今分かっているヒ素の出ている地域を世界規模で見ると、大まかにいえば、ヒマラヤ山系より流れ下っている大河の流域に集中している。

Bangladeshにおける安全な飲料水の確保

- 当初は村の中の池を飲料水に使って、その池は他の用途に一切使用せずに安全性を保っていた。
- 1980年代にポンプ井戸が急激に広がり、表流水よりも地下水のほうが安全だと言う考え方が支配的となり、ポンプ井戸の普及は98%に達したと言われている。
- 池の水に慣れ、ポンプでくみあげる地下水は鉄の臭いと味がしてまずくて飲めないと拒否する人も多かったものが、ポンプの水へと変わることで、人の好みも変わり、今では、池の水よりポンプ井戸の水を好むようになってきている。
- 日本の場合はヒ素を出すであろう鉱山や産業が近隣にあり、体の異常があれば、すぐにヒ素が原因と気づいたが、Bangladeshの場合、安全と思われていた井戸水が原因だったため、症状が出てそれがヒ素を原因としたものと気づくのが遅れた。しかもまとまった地域に発生したため、悪性の伝染性の病気と思われ、誤った対応をする時期が長く続き、適切な対応が遅れた。
- そして1993年、安全な水を得るべく進めてきた井戸の水からヒ素が検出された。

Bangladeshでの対応

- ヒ素に対する長期的、最終的な対応は、全戸の水道化と考えている。
- 中期的な対応としては、コミュニティ型代替水源の確保がある。

- 短期的には戸別に行っている各種ヒ素除去の試みがあり、各種のフィルターがある。

活動に当たっての問題点

- 地方には住民サービスのための行政の仕組みが確立していない。
- 利用住民主体で活動を行い、地方行政がサポートする仕組みが必要。
- 地域住民たちが、国際機関やNGOなどに援助されることに慣れてしまっており、問題があった場合などそのまま放置されてしまうことも多い。自分たちがオーナーであり、自分たちが維持管理していくという気構えを持つことが、今一番必要。

浅井戸と深井戸

- 当初、深井戸は汚染されにくいと認識されていた。しかし、浅い帯水層と深い帯水層をへだてる粘土層がない場合、浅い帯水層のヒ素汚染水が深い帯水層に降りてくることになり、当初はヒ素汚染がない深井戸でも、上からヒ素を引っ張ってきてしまうことになる。
- 飲料用の手動ポンプだと水が集まる範囲は狭いので、場所によっては高濃度のヒ素が検出される。灌漑用の動力ポンプは、広い範囲から水を引っ張ってくるので、それほど高いヒ素汚染は見られないが、汚染されている灌漑井戸の割合は飲料用井戸よりも高い傾向にある。
- 深井戸の水を飲用するときは、粘土層の存在を認識しておくことが必要だ。

シャムタ村について分かること

- 村内にある282本のすべての井戸について汚染の有無、その度合いを調べた。
- ヒ素の汚染はランダムではなく、位置に一定の傾向が見られる。それは、①土地が低いところ、②貧しい家が密集しているところ、③多数の家畜を飼っているところなどで、ヒ素が出やすくなっている。

なぜ最近になってヒ素が出てきたのか？

- 地下で鉄化合物に吸着・安定していたヒ素が、還元的な条件のもとで鉄化合物から遊離して地下水に溶け出している。還元化は、自然現象+促進要因によってもたらされる。



講演される川原一之氏

- 促進要因とは？
 - 1) 廃水、人間・家畜の尿尿、化学肥料の地下浸透など
 - 2) 微生物の活性化
 - 3) リンがヒ素に代って鉄と吸着することによって、ヒ素が解き放たれてしまう。
- はっきりとは断言できないが、一般に高濃度のヒ素汚染井戸は、上記の促進要因のある場所と一致していると感じられる。

農村の環境問題への対応

- 今まであまり目を向けていなかった生活廃水にきちんと対応して行かなければいけない。
- 魚の養殖に多量の肥料を使っている池は、富栄養の状態になって赤や緑の藻が発生している。このことにも対応していかなければならない。
- 伝統的なゴミ捨て場であるゴボルでは、牛糞、生ごみ、ワラなどで堆肥を作っているが、機械化により牛糞が減れば、堆肥を作ることも難しくなっていて、ただのごみ捨て場として放置されてしまう問題も考えるべき。

ヒ素対策実例の紹介

- 雨水を貯めるタンクについて
 - 1) 屋根がトタンとコンクリートではない場合、バクテリア汚染の懸念がある。カワラの場合も汚染されるが、カワラの重なり部分に汚染物が堆積するものと考えられる。
 - 2) 5人家族の6ヶ月分で3000リッター用意したが、全世帯が一斉に作らなかったため、近くの親族も利用しに集まり、短期間で水がなくなってしまうことがあった。
 - 3) 雨水は味がないため、ポンプ井戸の水の味に慣れてしまっている人達には不評である。
 - 4) 個人の家それぞれ作るものだが、バングラの政府は個人への補助金は出さない。
- 表流水をサンドフィルターで浄化して使う仕組み：ダグウェルサンドフィルターとポンドサンドフィルター（PSF）がある。

- 1) PSF 用の池はすべて所有者があり、その池をお借りした上で掘りなおして大きくし、底のごみの除去を行う。その際、池の底の粘土層の厚さを確認するためにボーリングなど事前調査を行う必要がある。
- 2) 池に柵をして飲用以外の使用を禁止する。肥料を与えて魚を飼うことも禁止。
- 3) 万一池の水がなくなった場合、灌漑用の井戸水を入れてもいいかもしれない。水を入れて1週間から10日程度でヒ素濃度は落ちてくる。ただし水に鉄が含まれていて、ヒ素が鉄化合物に吸着されて沈殿することが条件になる。

● AIRP（鉄ヒ素除去装置）

- 1) 150 ppb を超えた原水には効果がない。
 - 2) 鉄を多く含んでいないといけない。
 - 3) リン濃度が低くないといけない。
 - 4) 掃除、洗浄の定期実施が必要。
- 深井戸（200m程度）：浅い帯水層と深い帯水層の間を粘土層で分離していなければいけない。そこにパイプを通す場合、シーリングをセメントで行う必要がある。
 - 簡易水道
 - 1) 300～500世帯用に設ける。
 - 2) 利用者組合を作り管理人をおき、処理施設に浮いた藻などは毎日取り除く。
 - 3) 地域の人たちや子供たちまで含んだメンテナンス活動があると良い。

最後に

- 上水、下水、ごみ、尿尿などトータルでセットにして考えて実行していかないと効果は少ない。
- 1人、1日あたり10リットルの水がほしい。
- 地方自治の末端であるユニオンは議会の仕組みであり、ほぼ行政機構を持っていないが、上水、下水、ごみ、尿尿などを担当する人を確保するように働きかけたい。

以上報告です。川原さんありがとうございました。

第55回尿尿・下水研究会報告

「航空写真にみる処理場用地」

3月13日（金）、標記のタイトルでの講話会を東京・新宿のTOTO新宿ショールーム・会議室（プレゼンテーションルーム）で実施しました。講師は当会会員の地田修一氏です。東京（23区）の処理場の用地が以前どのような土地利用形態であったのかを、古い航空写真などをもとに読み解いていただきました。講話の概要は次のとおりです。

- ① 三河島：水田（大正11年稼動）。三河島村村史に、「東京市が処分場用地として隅田川に面している土地を探していることを知った地主62名が土地の買上げ願いを提出した」と記録されている。
- ② 芝浦：海面埋立て地（昭和5年稼動）。大正12年から埋立てを開始し、昭和4年に完了した芝浦第三号埋立地の一面に建設された芝浦ポンプ所が始まりである。
- ③ 砂町：海面埋立て地（昭和6年稼動）。海岸から400m沖合いに造った人工島で、陸地とは専用道路で繋がっていたほか、着船場が設けられていた。

- ④ 小台（現みやぎ）：煉瓦用原料土採掘跡地（昭和37年稼動）。宮城地区には明治20年頃から煉瓦工場が数多く立地し、付近の田畑の表土も原料土として採掘された。処理場用地には、大小の池が点在していた。
- ⑤ 落合：工場跡地（昭和39年稼動）。2～3の小工場が立地する戦災を受けた跡地で、周りは住宅地であった。
- ⑥ 森ヶ崎：旅館街＋養魚場（西側施設、昭和42年稼動）、海面埋立て地（東側施設、昭和50年稼動）。明治32年に鉱泉が発見され、その後、保養地、旅館街として発展した地域であったが、戦中は軍需工場の宿舎として利用された。海苔養殖業も昭和37年に全面補償となり終焉した。
- ⑦ 新河岸：工場跡地＋水田（昭和49年稼動）【浮間：昭和41年稼動】手前の広大な水田には、その後、高島平団地が造成された。新河岸川に架かる早瀬橋は木橋で、時代劇の映画撮影がたびたび行われていた。交通機関は、赤羽駅からはバスで徳丸橋まで、東武東上線も成増などの

駅から途中までしかバスがなく、バス停から20～30分ほど歩いて通勤しなければならない辺鄙なところであった。

⑧昭和50年以降

小菅：屎尿処理場跡地ほか（昭和52年稼働）、葛西：海面埋立て地（昭和56年稼働）、中川：工場跡地（昭和59年稼働）、中野：刑務所跡地（平成7年稼働）、

有明：海面埋立て地（平成7年稼働）、新河岸東（現浮間）：国立研究所跡地（平成13年稼働）。

⑨処理場の呼称の移り変わり：汚水処分工場（明治41年頃）→汚水処分場（大正11年頃）→下水処理場（昭和27年頃）→処理場（昭和37年）→水再生センター（平成16年）。

（運営委員 地田修一 記）

屎尿・下水研究会 平成20年度特別企画 報告

「小平市ふれあい下水道館・特別講話会への講師派遣」

予ねてより屎尿・下水研究会の幹事会の席上でしばしば話題になりながら、なかなか実現に至らなかった「一般市民の方々を対象とした講話会の開催」が、このたびようやく実施の運びとなりました。年度当初の活動計画にはあがっていませんでしたが、本会監事・松田旭正氏のご尽力により小平市の「ふれあい下水道館」の講座室（定員25名）を借用できることとなり、急遽、屎尿・下水研究会の平成20年度特別企画として取組むこととなりました。

土曜あるいは日曜の午後に、2時間の「特別講話会」の枠を設けていただき、講話者の派遣は当研究会が自主的に行い、講話会開催の市民への周知は小平市が「市報 こだいら」で広報することにより実施したものです。平成20年度は、下記のとおり4回開催しました。

第1回特別講話会：10月4日（土）

森田英樹氏「日本のトイレ発達史」：古代から昭和期までの日本のトイレの移り変わり。

第2回特別講話会：12月7日（日）

栗田彰氏「江戸の下水道」：江戸の町には、下水（家庭雑排水＋雨水）を排除するための下水道が造られていた。

第3回特別講話会：1月18日（日）

地田修一氏「明治以降の東京における下水道整備のあゆみ」：屎尿を下水道に受け入れ、汚水処理を行う近代的下水道の歴史的経過を、東京を事例として話した。

第4回特別講話会：2月15日（日）

松田旭正氏「ふれあい下水道館の役割と世界の水事情」：発展途上国の厳しい水循環の現状を通して、ふれあい下水道館の役割を提案した。

4回の講話内容をお伝えしていきますが、第3回以降は次号で報告します。

第1回：日本のトイレ発達史

① 先史時代：鳥浜貝塚（福井県若狭湾）から多数の糞石が発見されたことから、ここに栈橋型水洗トイレがあったことが推測される。② 古代：厠（川の上にトイレを作り、排泄物を流し去る「川屋」が語源）という言葉から、日本のトイレの原型を想像することができる。かつて高野山にあったトイレは、この形式のものである。③ 平安時代：貴族の寝殿造の邸宅では、大使用には「しのはこ」、小使用には「おおつぼ」と呼ばれる持運び式の便器を使用した。一方、京の庶民は野外の特定の排便場所で行っており、この時、高下駄を使用した。④ 鎌倉時代の末期：肥料としての屎尿を確保するため、汲取り便所が登場する。⑤ 戦国時代：屎尿を農地に還元するリサイクルシステムの萌

芽がみられる。⑥ 江戸時代：江戸の長屋では汲取られた屎尿の代価はすべて大家のものとなったが、京都周辺では大便は大家のもの、小便は店子のものとなった。⑦ 明治時代：洋式の水洗便器が輸入されたのは明治の中頃である。⑧ 大正・昭和前期：化学肥料の登場により、屎尿はやっかいものになり始めた。衛生的に農地還元するための改良便所の研究が盛んに行われる。⑨ 現代：水洗式便器の普及によりトイレ空間は、悪臭、蠅などから開放されたが、屎尿は有価物から処理すべき廃棄物となった。

第2回：江戸の下水道

① 江戸の下水道と現代の下水道の違い：江戸の下水道は、下水を排除するだけのものであった。ただし、屎尿は下水道に受け入れなかった。② 江戸の町の下水道は、町中の下水道から堀や川を通じて隅田川や神田川などに流れ出て、最終的には海へ流されていた。③ 町中の下水道のしくみ：台所の流しから落ちた下水は、敷居の下に作られた木樋（あるいは竹筒）を通して路地の下水道に流れ出る → 路地の下水道（幅18～21cm、丸太の杭で支えられた木組み、場合によっては石組み）には木の蓋がされていた → 共同井戸の流し場からの洗濯や洗い物の排水も路地の下水道に流れ込む。④ 路地の下水道は、長屋の奥にあった町境の下水道や長屋の脇の下水道へ、あるいは表の道路端の下水道に繋がっていた。⑤ 外の下水道に繋がる手前には、柵が取付けられている所もあった。⑥ 雨落下水：道路に降った雨や家の軒先から落ちる雨を受け入れた道路端の下水道。⑦ 横切下水：道路を横切る下水道。⑧ 埋下水：暗渠の下水道。⑨ 町境の下水道は、町から町へと繋がりがやがて近くの堀や川に流れ出るようになっていた。⑩ 下水と一緒に流れて来るゴミを取除くために、下水が堀や川に流れ出る所には杭を並べて、あるいは合掌造り風に、打ち込んであった。⑪ 江戸時代に下水道の役割を果たしていた堀や川の例として、入谷・浅草・蔵前を流れていた浅草新堀川、染井・駒込・田端を流れていた谷田川、谷中・根津を流れていた藍染川、大塚・小石川を流れていた小石川などがある。これらはいずれも、現在の下水道の幹線になっている。

なお、特別講話会の資料として、第1回、第2回では屎尿・下水研究会が新たに作成した「文化資料—1 トイレと下水道の歴史」を配布しました。

さらに平成21年度においても同様の企画を実施すべく、関係者との協議を進めているところです。

（運営委員 地田修一 記）

旧事九官録 巻9

大相撲の事

運営委員 森田英樹

大相撲の季節になると、離れに住む祖母の元には数人の
お年寄りが集まりテレビで相撲観戦を楽しんでいた。果た
して祖母がどの程度相撲好きであったのか、どんな関係の
人々が集まっていたのか、今となっては解らない。小学生
であった私は、相撲には全く関心がなかった。しかし、そ
こに集う祖母たちがテレビに釘付けになり、大声で声援を
送り、歓喜、落胆する姿。そんな、普段は見ることのでき
ないお年寄りの表情を見るのがなぜか楽しくて、メンバー
の一員となっていた。突然ひとりが『あんなに太っていて、
自分の尻を拭けるのかな？』と呟いた。衆議の末『自分
では拭けない、付き人が拭くに違いない』というのが結論
であった。私の頭には『その付き人の尻は誰が拭くのだろ
う？』という疑問が残った。

2009年1月、TOTOの立川ショールームで、『トイレ
博物館』が期間限定で開催された。北九州市にあるTOTO
歴史資料館所蔵の展示品の一部を全国のTOTO各ショ
ールームが借り受けて、ショールームイベントとしているよ
うである。皆さんの町のTOTOショールームにもやって
来るかもしれない。以前、千葉ショールームで開催された
のだが、開催情報を手に入れたのが遅かったため、行くこ
とができず大変悔しい思いをし、捲土重来を期していた。

展示品に両国国技館支度部屋の力士用便器があった。
昭和59年の新国技館建設にあたって開発された便器で

一般の便器より幅5センチ、長さ7センチほど大きく作
られている。国技館の支度部屋は取材禁止のようで写真
でも見たことがなかった。私の頭では勝手にイメージが
膨らみバスタブのような巨大な便器を想像していた。も
ちろん、そんなはずもなく通常の便器より若干大きいだ
けであった。違いとしては力士の体重に耐えられるよう
に、便器と床を固定するボルト穴が通常は4箇所である
のに対して、6箇所。便座あたり止めを同じく通常の4箇
所に対して、6箇所と増設している点であろう。通常の便
座では実際によく割れてしまうので、相撲部屋ではスペ
アを置いて対策しているようだ。『便座が割れてしま
う程の体重なら、ウオシュレットなども壊れてしまうの
ではないだろうか？』『やはり、力士には拭くしか方法
はないのだろうか？』

妹尾河童著『河童が覗いたトイレまんだら』には、妹尾
氏も疑問に思っていた噂『付き人にお尻を拭いてもらうこ
と』の真偽について、九重親方へのインタビューが登場し
ている。九重親方いわく『噂ですよ。でも、僕もそんな噂
聞いてたから、入門する時、もしお尻を拭かされたら嫌だ
なあと考えてたけど、それはなかったですね。力士は鍛え
ていきますから、一般の人より体は柔らかいんですよ。尻に
手がとどかないなんてことはない』

今回の墓参の時、祖母に報告しておこう。

バングラデシュ便り7号 (Mar./2009)

アラーはどこにでもおられる

本会運営委員 高橋 邦夫

ある知人に聞いた。彼は敬虔なムスリムであり日本を
含めて外国へも行っている。日本で会った時、彼の態様は
現地と同様、厳格なムスリムであった。気を使って鶏肉料
理を頼んだが一切口にしない。アラーにお断りを容れない
鶏肉は禁断なのである。仕方が無いからその後、魚料理
に切り替えた。

「アラーは何処にいるのか？」
「アラーは何処にでもおられる」
「今朝何を食べたか？」
「チャパティーとベジタブルカレーとお茶だ」
「君はアラーを食べかつ飲んだのか、さらに言えば、ア
ラーも吸ったのか？」
「それはアラーが許されたことだ」
「なぜアラーはアラーを食べることを許すのか？」
「それはアラーが許されたことだ」

ここで会話が途絶えるとともに、二人で大笑いした。
多くの日本人は食事の前に「いただきます」を唱える。
口に出すか否かは問わない。この場合の「いただきます」
は、食物のお命を謹んで頂くのである。人は食物なしに
は生きてはいけない。食物は往々にして生命を宿した、
あるいは宿している生物である。山川草木皆仏性を持つ
という認識の中で、生きるための業を認め、感謝の気持
を表わしたものである。歎異抄に即して言えば、“悪人

なおもて往生す”である。

これは決して仏教の祖たる釈迦の教えではないだろ
う。釈迦が生きてよみがえれば、その後の宗派の異様な発
展、曲折に動転するに違いない。現に、山川草木皆仏性
を持つという最澄の法華経解釈は、南都仏教法相宗の論客
として知られた徳一との間で大論戦になり、決着を見な



モスクと聖廟

(モスクや聖地の周りは物乞いのたまり場でもある：シレット)

いまま、最澄の死をもって終わった。

江戸中期、富永仲基は、多くの大乘仏典は、釈迦の教えとは無関係であることを論証しており、それは、現在の仏教界の大方の見方である。まして、“悪人なおもて往生す”、といった解釈にいたっては、無への帰属、涅槃を説いた教祖からすれば、他人の虚言と聞くかもしれない。

宗教は、宗祖と教義と宗教的行為とで定義されるようである。仏教でいう仏・法・僧である。無論その起源は宗祖に至る。ここで、不思議な事実であるが、多くの場合、宗祖は言葉と行為を記憶に残したのみであり、宗教としての形態は後世の信徒集団が形成したのである。キリスト、ムハンマド、釈迦に著作物は無い。儒教を宗教として見なすには疑問を呈する見方もあるが、“子曰く”であり、仏教の場合は“如是我聞”である。キリスト教、イスラム教もまた然りである。ユダヤ教典である旧約聖書はある部族の説話集ともいえる。

宗教と哲学の差異はよくわからないが、宗教に共通の場面は、誰もが体験した事の無い、しかしながら必ず体験する死に対する恐怖、畏怖、転じて安息に対する態様を伴う。

そのため、現世の態様に言及する。輪廻転生、復活、天国地獄、浄土など、死後の世界は多様である。ここで、釈迦は、浄土などとは一言もいっていないのである。それは解脱であり無である。端的に言えば、生きる事は身体を燃やす事であり、燃え尽きて灰になることが死である。あらゆる生物に共通の事象である。

日本人の多くは、無宗教、あるいは宗教的な一貫性に欠如しているといわれる。かつて、人並み以上の体力と人並に近い能力を持った、いささか軽薄な首相の“神の国”発言は、“八百万の神の国”といえよよかったのである。私の場合、宗教的な雰囲気は理解できるし浸ることもある。そしてこの場合、アミニズムと呼ばれる概念が最も適合する。科学は、現象の論理的な分析と統合に多に寄与してきたのは周知の事実である。しかしながら、森羅万象を科学的に理解する事は出来ないのではないかという漠然とした思いがあるからである。

その反面、一神教の持つ厳格さ、厳格であるがゆえに来す筋道の破綻にはうんざりする思いが有るのも事実であり、歴史的事実に沿えば、それら宗祖は、極悪非道のそしりを免れ得ないか、大いなる詐欺師ということになる。

'09 多摩川の「源流祭」ご案内

毎年5月4日は、多摩川上流の小菅村で源流祭が行われます。今年で23回となる“水と火と味の祭典”では、歌謡ショーで橋幸夫を迎えます(13:50～)。朝からは地元のマス、岩魚、山菜などを肴に地酒を酌み交わし、多摩川上下流の懇親が行われます。

夕刻からの日本一のお松焼きは漆黒の闇をこがし、勇壮の一語に尽きます。打上げ花火も楽しみのひとつです。

本会では、毎年地元の方とも一体感を味わうべく民宿「山水館」(TEL 0428-87-0533)を予約しています。足

の便は、青梅線「奥多摩」、中央線「上野原」からバスの便(それぞれ西東京バス、富士急山梨バス)があります。老若男女を問わず、ご家族でぜひご参加ください。山水館の宿泊は三食付で¥7,500円ですが、例年どおり会から補助があります。

今年の源流祭について詳しくお知りになりたい方にはパンフレットをお送りします。そのほか、費用やバス便などのお問い合わせ、申込みは、藤森正法さんまでお願いします。(携帯 090-4132-5501、携帯メール fujimoriseihou@docomo.ne.jp)、申込み締め切りは4月20日とさせていただきます。

運営委員会・事務局より

- **機関誌をお届けします**：今回も年度末となってしまいましたが、機関誌「下水文化研究」をお届けします。ご感想などぜひお寄せください。
- **会費納入のお願い**：本会報を受け取られたときには、新年度となっているかと思いますが、新年度の会費をできるだけ速やかにお納めいただければ幸いです。会費納入は同封されている振込用紙をご利用ください。申し上げるまでもなく、本会のNPO活動は、会員各位の会費によって支えられておりますので、よろしく願いいたします。
- **前号でもお知らせしましたようにホームページがリニューアルされています**。バルトン記念行事関係の地図などは、ホームページを参照していただくようにさせていただきましたが、これを機会に是非一度アクセスしてもらえれば幸いです。

編集後記 昨年は国際衛生年でしたが、それもあつてかマスコミ関係などからの本会への問い合わせも増えていきますし、世の中で、トイレ、し尿、衛生への関心が高まりつつあるようです。しかし、日本において切実感のあるテーマではないので、記事や番組というかたちになることはまだまだ稀なことです。▶われわれも衛生について再考の時期にあるのかもしれませんが、「衛生」に関連をもつ水資源、環境、生活、食、農、健康などをセットで考えた時に、どのような「衛生」がふさわしいのかを考えることは、私たちがいま取り組んでいる開発途上国だけの問題ではなさそうです。遠くない将来を考えたとき、日本を含めた世界の多くの地域で真剣に考えなければならない問題になってくるだろうという予感がします。▶これからの「衛生」モデルを見つけることも、私たちの海外技術協力の意義ではないかと考えています。(酒井 彰)

ふくりゅう 通巻60号 目次

第13回総会案内	1
2009年バルトン記念行事案内	1
第45回定例研究会報告 「バングラデシュ農村の環境問題」	2
第55回尿尿・下水研究会報告 「航空写真にみる処理場用地」	3
尿尿・下水研究会 平成20年度特別企画 報告	4
旧事九官録 巻9 大相撲の事	5
バングラデシュ便り 7号 アラールはどこにでもおられる	5

特定非営利活動法人 日本下水文化研究会
〒162-0067 新宿区富久町6-5 NJS富久ビル別館3F
TEL & FAX 03-5363-1129 e-mail: jade@jca.apc.org

「ふくりゅう」では、原稿募集をしております。「水」について思うこと、身近な話題、会に対するご意見やご提案、どのようなことでも結構ですから事務局までお送りください。

ホームページもご覧ください

<http://www.jca.apc.org/jade/index.htm>
関西支部 <http://www1.kcn.ne.jp/~k-atsumi/>